

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果

江戸川区立下鎌田小学校

1 学力調査結果

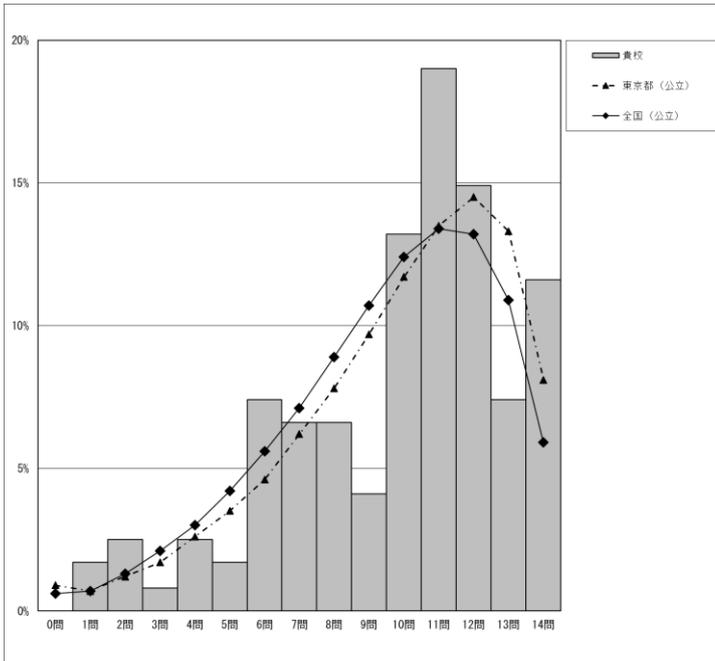
■国語

	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
江戸川区立下鎌田小学校	9.9 / 14	70	11.0	3.2
東京都(公立)	9.8 / 14	70	10.0	3.1
全国(公立)	9.5 / 14	67.7	10.0	3.1

国語の平均正答率は、都平均・全国平均どちらと比較しても上回っている。

設問ごとにみても「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」設問に対する正答率が全国・都平均と比べ、本校は約12%以上低くなっている。

「条件を的確に捉え」「得られた情報を要約する」ことの指導の充実を図っていく必要がある。



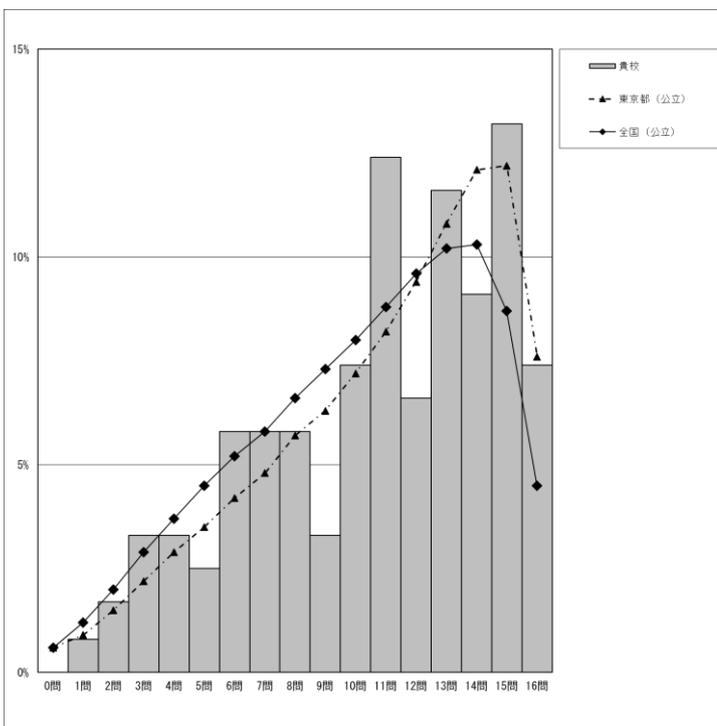
■算数

	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
江戸川区立下鎌田小学校	10.8 / 16	67	11.0	3.9
東京都(公立)	10.9 / 16	68	12.0	3.9
全国(公立)	10.1 / 16	63.4	11.0	3.9

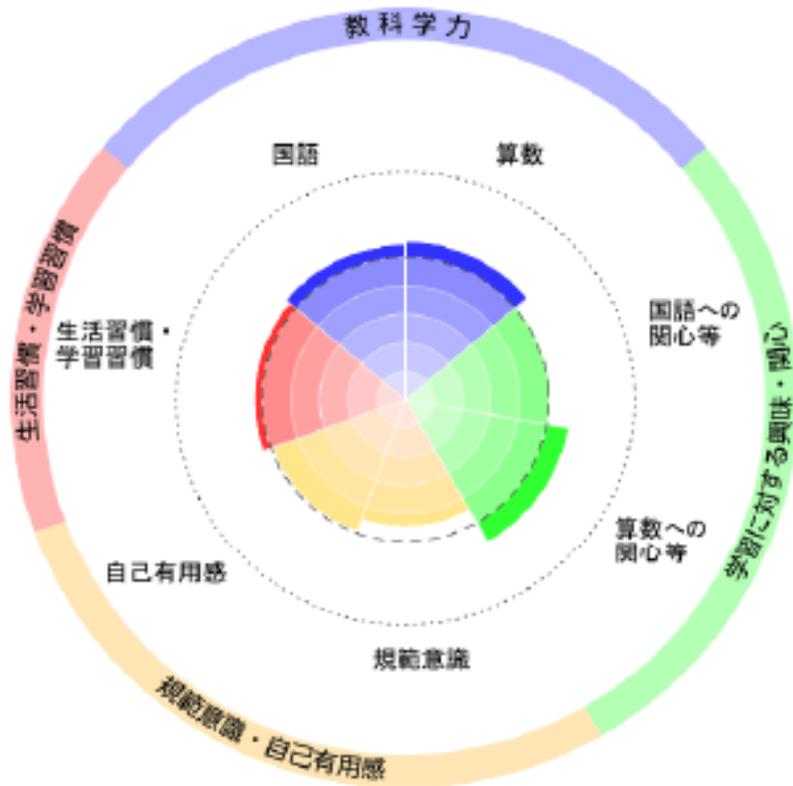
算数の平均正答率は、都平均を1%下回っているものの、全国平均は上回っている。

設問ごとにみても、「除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる」という設問に対する正答率が都平均と比べ約9%、全国平均と比べても約5%低くなっている。また、全国的に課題となっている図と文章から必要な情報を抜き出して問題を解決する設問に対して、本校においても課題となっている。

演算を単なる処理で終わらせるのではなく、具体的な場面を取り上げるなどして、量的な実感をもてるような指導を系統だてて行っていく必要があるとともに、文章だけでなく図や表も含めた複合的な課題を意図的に取り上げる必要がある。



2 意識調査



全国基準と比較して「国語・算数の教科学力」、「算数への関心等」、「生活習慣・学習習慣」については肯定的な回答が多くなっている。また、「規範意識」については肯定的な回答の割合が相対的に低くなっている。

「生活習慣・学習習慣」について設問単位で肯定的な回答の割合が著しく低かったものではなく、「人が困っているときは、進んで助けていますか」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問が少しずつ、全国平均より下回った結果となっている。

「算数への関心等」について肯定的な回答の割合が高かった設問としては、「算数の勉強は好きですか」、「算数の勉強は大切だと思いますか」、「算数の授業の内容はよく分かりますか」、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という算数への関心等に関する4つの設問すべてとなっている。本校では、学力向上への取組の一環として本年度より算数科において「主体的に学習に取り組む子の育成 ―確かな学力の定着を目指して―」をテーマに校内研究を進めており、その成果が表れた結果と考察される。